

Z-76-A 簿記論〔第一問〕一解 答一

①	① い	②	① 811
③	① 11	④	① え
⑤	① 88	⑥	① 444
⑦	① い	⑧	① 150
⑨	① 2, 197	⑩	① く
⑪	① 247, 120	⑫	① 420
⑬	① 2, 611	⑭	① お
⑮	① 735	⑯	① こ
⑰	① 62, 305	⑱	① 1, 300
⑲	① 293, 805	⑳	① さ
㉑	① 19, 246	㉒	① 219, 419
㉓	① あ	㉔	① く
㉕	① 17, 229		

Z-76-A 簿記論〔第二問〕一解 答一

問 1

(1)		②	3,000,000 円
(2)		②	1,170,000 円
(3)		①	12 年
(4)		①	178,500 円
(5)		①	60,000 円
(6)		②	632,000 円
(7)		②	185,400,000 円
(8)		②	256,000,000 円
(9)		②	170,000 円
(10)	200%定率法	②	131,625 円
	級数法	①	130,500 円

問 2

(1)	①	②	180,000 千円
	②	①	125,000 千円
	③	①	0 千円
(2)		①	621,600 千円
(3)		①	475,900 千円
(4)		①	308,599 千円

Z-76-A 簿記論〔第三問〕一解 答一

(単位：円)

①	②	16,800,000
②	①	316,500,000
③	①	780,000
④	②	52,825,000
⑤	②	89,390,000
⑥	①	35,000,000
⑦	①	280,000
⑧	①	4,250,000
⑨	①	126,000
⑩	①	1,838,517,473
⑪	①	410,000,000
⑫	①	117,800,000
⑬	②	92,500,000
⑭	①	93,045,000
⑮	②	2,379,000
⑯	②	8,820,000
⑰	②	201,220,000
⑱	①	3,600,000
⑲	②	648,000
⑳	①	3,937,500

㉑	②	10,660,000
㉒	②	1,410,750
㉓	①	1,000,000
㉔	①	30,125,000
㉕	①	57,200,000
㉖	①	63,557,183
㉗	①	3,000,000,000
㉘	②	33,400,000
㉙	①	200,000
㉚	①	4,182,723
㉛	②	2,800,000
㉜	①	2,280,000
㉝	①	12,557,183
㉞	①	697,320,000
㉟	①	240,069,000
㊱	①	166,570,000
㊲	①	31,640,000
㊳	①	40,040,000

簿 記 論 【総評】

〔はじめに〕

全体として難易度・分量ともバランスが取れており、内容的にも、本支店会計や有形固定資産の取得・償却など伝統的なテーマ・取引が多く見られ、昨年同様、簿記論らしい特徴的な出題であった。多くの受験生が比較的取り組み易い印象を受けたと思われるが、資料や設問の読み取りに際してケアレスミスを誘う部分が少なからずあり、自己採点で思わぬ取りこぼしに気づくかもしれない。合格ラインは、簿記論としては、例年よりわずかに高い水準になると予想される。

〔第一問〕

在外支店を有する本支店会計の帳簿上の決算手続を主要なテーマとし、個別的には、社債（本店が発行）、満期保有目的債券（在外支店が保有）に係る処理を含めた、総合問題であった。全体としての難易度は標準レベルであるが、分量は多く、30分以内での完答は難しいため、最終的な集計値となる為替差損益(⑤)や支店純利益(⑰)と、これに連動する部分(⑱⑳)を除いて、15～16カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン：15点～16点

〔第二問〕

問1(18点)は、有形固定資産に係るさまざまな会計処理（資本的支出、総合償却、買換え、交換など）、問2(7点)は、のれんの減損処理について問うものであった。いずれも、部分的に難度の高い設問が含まれているものの、時間的には適度な分量であり、解ける部分を取りこぼしなく高い精度で正答できたかがポイントとなる。全体を通じて、10カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン：15点～16点

〔第三問〕

商品販売業を営む企業に関する総合問題であるが、昨年と同様、通常の決算整理型ではなく、前期末及び当期末の閉鎖残高勘定の内訳が与えられ、普通預金の収支その他の資料から期中取引等を推定し、損益勘定などを作成するものであった。これは、期首と期末の残高を参照して勘定分析により期中取引・決算整理を把握するという典型的な構造の推定問題であり、手際よく解き進めるためには、勘定分析が必要であるという点にできるだけ早い段階で気づく必要があった。ごく平易と言える部分はほとんどなく、どこから手を付けてもそれなりに手間のかかる内容であり、閉鎖残高勘定と損益勘定の空欄(①～⑳)を中心に、18～20カ所程度を正答できていればよいであろう。

予想ボーダーライン：25点～27点

〔合格ライン〕

簿記論の予想合格ボーダーライン：56点～58点（LECの想定する配点基準に基づく）

配点基準が変われば合格ラインも上下するので、おおよその目安として合格ラインを見るようにしていただきたい。